

地域トピックス

◆さくら回廊に夢はせて (遠野町)

遠野第8区自治会(佐藤義夫会長)は10月30日、市中心部を流れる早瀬川河畔約1.3kmに桜の苗木を植栽する「早瀬川さくら回廊夢づくり事業」を実施しました。

集まった地区住民約180人がスコップやかまを使い、苗木40本の植栽や土寄せ、周辺の草刈りなどの作業を行いました。

作業を終えた人たちは「来年はぜひみんなで花見をしたい」と、早くも満開のさくらに思いをはせていました。



植栽した苗木に土寄せを行う参加者

◆冬の安全運転を学ぶ(附馬牛町)

遠野地区交通安全協会附馬牛分会(山本昌邦分会長)は11月6日、遠野ドライビングスクールで、本年度の交通安全研修会として自動車のスキッド(横滑り)体験を行いました。

参加者は、滑る路面に苦戦しながらも凍結道路でタイヤをロックさせないブレーキ操作などの方法について熱心に受講していました。

参加した鳥屋部景子さんは「思っていたより難しかった。今日の研修を冬期間の安全運転に生かしたい」と話していました。



タイヤをロックさせない方法を学んだスキッド体験



完成を祝い渡り初めする地域の3世代2家族

◆附馬牛バイパス開通を祝う

附馬牛町の県道土淵達曾部線「附馬牛バイパス(920m)」の開通式は十一月九日、現地で関係者や地元住民ら約百人が出席して行われました。

関係者によるテープカットの後、紋付き羽織、はかま姿で地元の安部義則さん、江川幸男さんの二家族のそれぞれ三世代が渡り初めして開通を祝いました。

附馬牛バイパスは、安全で円滑な交通と歩行者の安全確保のため、平成十三年度に着工。バイパスの完成により、児童生徒など歩行者の安全確保のほか、観光道路として広域観光振興のさらなる発展が期待されます。



奈蔵先生の指導のもと、全員が参加してのレッスン

◆エアロビクスの魅力を発信

第一回わくわくエアロビクスin遠野は十月三十日、遠野中学校体育館で市内外から約百人が参加し開催されました。

子どもから中高年者まで楽しめるエアロビクスの魅力を広めることなどを目的に、市内のエアロビクスサークルMeekラブと上郷エアロビクスサークルが主催。

十月に開催されたスポーツ・レクリエーション祭に出場したチームを含む十四団体の発表の後、日本エアロビクス連盟認定キッズ・ジュニア指導員の奈蔵和香さんの指導によるレッスンが行われ、参加者らは交流を深めながら心地よい汗を流していました。

◆これからの地域づくりを考える

魅力あるまちづくりの新たな展開を考える地域づくり実践カレッジin遠野(同実行委員会など主催)は十一月二十一、二十二の両日、市民センター大ホールなどで全国から自治会役員など約千人が参加し開催されました。

分科会では、市内の活動家もパネリストとして参加。二人一人が主役。それをまとめるのがリーダーの役割。など、実践例を交えながら遠野の地域づくりの取り組みを全国に発信しました。

昼食には、夢咲き茶屋の皆さんが郷土料理を振る舞うなど、参加者に遠野の魅力を伝えた二日間となりました。



実践例を基に提言を交わした分科会

◆道路整備の必要性を訴える

フォーラム「明日を拓く東北横断自動車道釜石―花巻間」は十一月十六日、あえりあ遠野で沿線市町村から五百三十人が参加し開催されました。

フォーラムは、早期整備が望まれる東北横断自動車道釜石―花巻間の必要性などを考えるために、釜石自動車道利用促進協議会などが主催。

国土交通省東北地方整備局の南哲行道路部長による基調講演の後、物流と観光をテーマにパネルディスカッションが行われ、パネリストは地域振興や医療へ与える影響などから、道路整備の必要性を主張しました。



横断自動車道の早期整備を主張したパネルディスカッション

まちの話題



県代表メンバーとして 東北大会2位に貢献



加藤愛さん
(遠野高校二年)

東北地区高校囲碁選手権大会は11月5日、雫石町で開催され、遠野高校2年の加藤愛さんが県代表の三将として出場し、チームが見事2位に入賞しました。

加藤さんは、遠野高校囲碁将棋部(部員5人)に所属し、日々練習に励んでいます。10月に開催された県高校囲碁新人大会で3位に入賞したことから、東北大会の県代表メンバーに選出されました。

「東北大会では緊張したけれど、順調に打てました。来年は、全国大会に出場したい」と今後に向け意欲を燃やしていました。